

がんばろう 南三陸町 復興第 59 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝



新春を寿ぎお慶びを申し上げます



2017 年が皆様にとりまして輝かしい年となる事を祈ります

本年も南三陸町の情報をお届けいたします (志津川広報センター代表)

志高生の長年の活動が実を結ぶ



平成 28 年 12 月 20 日

今回の南三陸町への「南三陸モアイバス」の贈呈式は、生徒が計画し実行委員会を設け、佐藤大輔委員長が中心に式典を開催した。

始めに山内校長の挨拶では「町おこしの一環としてやってきたモアイ化計画」である事を伝え、多くの関係者と先輩が頑張った事を、心に刻んで欲しいと語った。2014 年に一国のチリ大統領が高校を訪れ、志高への支援を約束してくれた。モアイは「未来に生きる」との意味を持ち、「モアイは南三陸町の復興のシンボルとなった」と話した。

寄贈者あいさつでは、佐藤実行委員長が、「多くのみなさんに利用してもらいたい」と話す。みなさんモアイサポーターズ鈴木清美副会長は「モアイ像の缶バッチを売ってモアイバスを寄贈しよう!」の目標に向かい、「小さな缶バッチがモアイバスに変わったこの瞬間に立ち会えた事が嬉しい」と話した。その他にも福岡の穂波ライオンズでは、缶バッチ販売支援の活動で 1 万個を達成した報告や、毎日大阪第一放送では生徒の活動を映画で追いかけて、「南三陸町の人温かく優しく力強い」と、20 カ所以上で沢山の人の想いを映画化し紹介した。この収益金を活動支援として、応援金として寄贈した。

その後で志校生から佐藤町長に、モアイバスの「カギ」が贈られた。

町長の挨拶では、生徒による贈呈式に感謝と、先輩から後輩へと活動をつないだ。「つないでいく事こそ感動」と語った。



辻文生氏県内 2 人の藍綬褒章受章

2016 年 10 月 1 日に平成 28 年度秋の叙勲で志津川字細浦徳性寺住職辻文生 (69 才) が、宮城県内で 2 人の藍綬褒章受章となり、その祝賀会が保護司会や行政職員・友人・知人など関係者 90 人が集まり、南三陸プラザにおいて開催された。

辻文生氏は昭和 60 年 3 月に法務大臣により保



志津川高校の「南三陸モアイ化計画」

情報ビジネス科の「課題研究」の授業で選択した 8 人のマーケティングが、平成 22 年に立ち上げたことが始まりだった。

まずは南三陸町のいいところを調査し、「モアイの町・南三陸町」を全国へ発信していこうと動き出した。南三陸町のモアイの歴史は「1960 年 (昭和 35 年) に発生したチリ地震津波で大きな被害を受け、復興を遂げた両国の友好のしるしとして、1990 年 (平成 2 年) にチリ共和国大使が来町し、友好のメッセージ」として贈られた事から始まった。

「南三陸モアイ化計画」の取り組みは、一人の生徒の「モアイを活用して町おこし」の提案が採用された。まずはモアイキャラクター制作からで、モアイ商品の開発、平成 22 年 11 月 14 日の大漁市へ参加し宣伝をした。その他にモアイカレンダーの配布で活動を伝え、町民向けのプレゼンテーションの実施をした。

平成 23 年 3 月 11 日に大震災が発生し、続ける事は難しいものとなった。そんな時町民の方々から「こんな時だからこそ継続して頑張ってください。」との言葉で再スタートした。初めに県外から応援に来てくれた警察官に対し「モアイ復興プレート」を贈呈した。その後もモアイ像の発見や、チリ共和国からのメッセージ、そしてチリ共和国ピヌラ大統領の来校となった。



南三陸町には震災前に「いしゃりくん」という町民バスが運行していて、津波で被災した。町民バスの復活を目指し、平成 24 年 2 月 25 日からオリジナルの缶バッチとストラップの販売を始めた。

「みなさんモアイサポーターズ」の発足は、24 年 9 月で仮設商店街の店主の皆さんを中心にした有志によりスタートした。

1 回目の収益金 450 万円を 25 年 11 月に、2 回目は 200 万円を 27 年 6 月にと、寄付金の総額が 650 万円となり町民バス購入の目途がたった。バスのデザインも 3 年 1 組の佐藤莉紗さんのデザインが採用された。

全国の多くの方々の寄付金やご支援の元、800 万円により「モアイバス」が志津川高校から南三陸町への寄贈となった。

郷土の高校を応援しましょう!

護司の委託を受け、登米志津川地区保護司会に所属し積極的に更生保護活動を推進することにより、特に地域の青少年の健全育成と、犯罪からの立ち直りに、持ち前の力量を発揮し、社会復帰に大きな役割を果たしておりその功績が認められた。



被災地で手島郁郎から学ぶ

「キリスト者手島郁郎の祈り」という、『日本よ永遠なれ』のドキュメント上映会に行った。父が活動の拠点として我が家を提供して、茨城県水戸市や仙台からくる被災者支援を受け入れた。

手島郁郎の活動は、キリスト伝道者として、大和魂の素晴らしさを伝え、戦争の悲惨な状況で多くの人達の苦しみを聞いた。その集まった人たちの共感の声、叫びや合掌・手をかざす等、共に助け合いの心を持ちましようと言った。日本に古くから信仰されている神社・仏閣での、伝道会には宗派を超えた、人類愛の輪が広がっていった。それは彼の信じるキリスト教が基本となっていた。

それは苦しみ助けを求めている人への、心の救済であり実現しなくても少しでも心を癒す事に邁進した。(弊社社長支援活動から)

今秋も長野県飯島町から宮澤さんの「ネギ」が届く!

今回から仮設から復興住宅に移ったた、被災した町民の方に一軒ずつ回りネギを配布した。その他に多くの町民が働く事業所へ届けた。

丁度、復興住宅を廻った時に、被災者支援の団体が、集会所でコンサートを開催していた。終わるのを待ち自宅へ帰る皆さんに、5~8 本を新聞紙に包んで、一人ひとりに手渡した。「香り良いね。」「こんなにも沢山。」「りっぱなネギだごだ。」など、感謝の言葉を頂いた。

事業所は歌津・志津川を廻り、牡蠣の作業所にも「愛の福袋」と共に届けた。長野県飯島町の宮澤さんからは、季節のジャガイモとネギの物資支援があり、今年で 5 年目 10 回を迎えた。

入谷地区民の議会への活発意見続々!

11 月 4 日から 3 班に別れ 3 日間 9 カ所の「議会と町民の懇談会」が開催され、最終日の 8 日午後 7 時からの入谷公民館の懇談会に参加した。14 名の地区民が参加し、震災後に入谷地区に自宅を建てた志津川地区の方もおり、参加者全員が議員に次々と質問と要望をぶつけた。初めに「南三陸町の人口」「町議会議員 1 人につき住民人数は何人なのか」の質問が出た。地元紙の報道だと約 12500 人で、それは登米市で今も暮らす人数が入っていないと言う。住民基本台帳の国勢調査によるものと報告された (町の広報誌では 10 月末で 13571 人)。法令では 1~2 万人で上限は議員数「22 人」までと、法令で決まっていると言う。議会全体としての意見しか述べられなく、個人的意見は発表できないと委員長は話した。

その他にも、「入谷小学校の仮設の解体」について、子供達に早く広いグラウンドを戻して欲しい。小学校周辺の避難道としては道幅が狭く、「拡幅工事を早く!」があった。入谷横断 1 号線の整備がなかなか進まないとの話に及んだ。「ひころの里」の道路については、旧カーブと道幅が狭く、大型バスなどは一回で回せなく、観光の町づくりを図るうえでも入谷地区の道路整備の必要性を訴えた。また、南三陸病院の診察時間についても、混んでいて 8 時間もかかる時があり、お年寄りには「待つのが辛い」と家族に話すと言う。

多くの町への要望が出され、「町議会に持ち帰り今後検討する」と議員団は地区民に伝えた。

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成28年(2016年)

9月の出来事

～ 地元報道より ～

南三陸町

◇気仙沼・本吉地域広域消防本部では、岩手県岩泉町へ台風10号被害で捜索などへの展開に2小隊を派遣した。

◇台風10号の倒木・高潮や冠水が各所で発生した。南三陸町の避難所に21世帯27人が避難した。風雨により歌津地区泊浜など841戸、入谷・志津川地区で327戸が停電した。

◇南三陸町の8月末の人工は1万3613人となり、先月より28人が減少した。地区別では志津川が14人減、入谷3人減、戸倉8人減、歌津3人減となった。世帯数では4601世帯で5世帯が減少した。

◇志津川高校の「旭ヶ浦祭」が2日開催され、恒例の仮装行列で文化祭開催のPRをし、志高からさんさん商店街までをねり歩いた。

◇被災した戸倉中学校を、戸倉公民館として改修され、館長に元町職員の佐藤道男氏(64才)が町から任命された。

歌津地区伊里前の山内亮さん(88才)が教育功勞で高齢者叙勲となった。山内氏は1954年に歌津村青年学校の指導として、教職についた。伊里前小学校では、59年に県緑化コンクールで1位に輝いた。86年には2度目の伊里前小校長を務め定年退職をした。現在は町内の高齢者施設で読書や短歌を楽しみながら生活している。

◇奈良県大和郡山市の「モアきんスマイルプロジェクト」が主催する「金魚すくい大会」が南三陸町で初めて開催され、多くの子供たちが金魚すくいを楽しんだ。

◇南三陸町の9月定例会の中で、町が進めていたマイナンバーを使った住民票などのコンビニ交付サービスが、情報公開・個人情報保護審査委員の任命をしていなかった事などを報告と陳謝をした。(続報でコンビニ交付は3カ月遅れの12月20日からとなった。)

◇JA 南三陸は情報発信に役立ててと、南三陸病院にテレビを寄贈した。

◇「生きがい健康づくり気仙沼・本吉地区大会」のグランドゴルフの交流会に約230人が参加し、一関の「きらめきパーク」で開催された。結果は、男子①若生司②吉田昇。女子①斉藤やすこ②吉田尚子。

◇10日南三陸町の「戸倉公民館」の落成式が開催された。旧戸倉中学校を改修し、戸倉地域の交流拠点として住民が再建を喜び、約100名の関係者が集まった。今後は戸倉地区の憩いの場や震災のパネルの展示も行う。

◇南三陸町議会は、佐藤達朗氏(68才)の町教育長を再任し、任期は平成31年1月18日まで

● 南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

9月の出来事

気仙沼市

気仙沼市の災害公営住宅の入居者の8割以上が減免対象者だった。家賃は政令月収世帯全体の年間収入から、各種控除を除いて12カ月で割った金額によって決められる。①0円～4万円…④6万1円～8万円と4段階に別れ、市では低減世帯が全体の831戸のうち718戸と86%を占め、特に①は537戸と64%を占める。

◆気仙沼市内の高齢者の弁当・配食が3か月で5倍となった。幸町や南部公営住宅への移転があり、多い時で1日60～70食で、背景には一人暮らしの高齢者・高齢世帯などの交通弱者の増加がある。

の3年間とした。また、平成の森野球場の修復工事は1億9千万円とした。

◇南三陸町の台風10号の被災調査で9千万円だった。志津川地区では主にカキ養殖で1920万円、歌津地区ではカキ養殖が1920万円でホタテ養殖が1520万円の被害を受けた。

南三陸町サケふ化放流事業を、町の主体から県漁協志津川支所へと移管する。東日本大震災前の2009年には3万0533匹の捕獲となり県内トップの実績がある。南三陸町魚市場の年間売上げの3割を占める重要な漁獲となっている。震災後の2012年は8894匹となり、昨年は1277匹まで激減している。沿岸漁業者の協力も不可欠で、今後は県漁協移管で自立を願う。

◇気仙沼本吉地区中総体駅伝大会で、男子は気仙沼がV2となり、志津川は2位となり共に県大会へ出場する。区間賞では、5区で阿部輝(志津川)が区間新となり、6区では榊皇秀(志津川)が区間賞をとった。

◇南三陸町は新町誕生以来初めて、「無火災500日」を突破し、住民の防火意識の高まりが見られる。

◇南三陸町歌津地区で8日、運動やレクリエーションを取り入れた「おらほの笑楽校」が開校した。地域の高齢者が「いつまでも古里で元気に」とスタートした。南三陸町社会福祉協議会が企画した。

◇県漁協志津川支所が8月31日に完成した。2011年8月から袖浜地区に仮事務所業務を開始していた。場所は志津川魚市場の近くで連携によって、地域の水産業の活性化を計っていく。工事費は1億1千万円。

◇志津川高校では3日、ジュニアインターンシップ(職場体験)があり、2年生100人が希望する職場を訪問し体験をした。

◇南三陸町議会の「議会改革特別委員会(山内孝樹委員長)は、町議会基本条例策定を決めた。議員定数に関しては今後検討することとした。

志津川高校陸上部の県高校陸上競技の新人大会で、ハンマー投げの三浦選手と棒高跳びの高倉選手が共に県大会を制覇した。また、やり投げでも菅原選手が2位に入るなど、フィールド部門で初の総合優勝を飾った。

◇南三陸署は兵庫県西宮の大工の男性(52才)を、窃盗の疑いで逮捕した。南三陸町の建設工事現場で、工具一式のほか4点(約20万円相当)を盗んだ。

◇県畜産共済会で、南三陸町入谷の菅原俊光さん(73才)の黒毛和牛「なつき号」が最優秀賞の3席を受賞した。また、優秀なメス牛に贈られる「種牛性賞」とダブル受賞となった。

「県障害者雇用のつどい」で気仙沼市・南三陸町から1個人と2事業所が受賞した。南三陸町からはカネキ吉田(吉田信吾代表)の男性従業員が長年にわたり業務に当たったとして、同機構の理事長の努力賞に選ばれた。

◇南三陸町入谷地区の八幡神社例大祭が18日に行われ、入谷打ちばやしや獅子舞が奉納された。

◆台風10号の通過で、気仙沼市・南三陸町で停電が2700戸、断水も110戸発生した。市内17カ所最大94世帯161人が避難した。

◆気仙沼市大谷海岸で、積まれた土のうが高波で崩壊し、住民は大谷海岸の砂浜の劣化の加速を心配していた。

◆漁港の被害では、階上の川原漁港で防潮堤が折れた。また、尾崎漁港では小舟が転覆した。

◆気仙沼市の三陸新報社の復刊70年を祈念して「演劇集団INDIGO・PLANT(インディゴ・プランツ)」の舞台「蒼空～空どこまでも蒼く」の公演会が開かれる。気仙沼市出身の俳優藤田信宏さんが主宰。古里に感謝を込めて準備を進めている。

気仙沼市の担い手育成支援事業「気仙沼わかもの会議『ぬま会』」が4日開かれ、高校生が20代30代の市内で活動する大人と、魅力や防潮堤をテーマに語り合った。

◆気仙沼市の児童福祉審議会があり、市内の認

◇県は本年度に100歳となる県民に、内閣総理大臣と県知事からお祝い状を届けている。気仙沼市・南三陸町は19人となっている。

◇南三陸町の土地の「基準価値」が住宅需要減少により下落となった。

◇南三陸町野球協会の「モアイカップ」が6年ぶりに復活した。南三陸町・気仙沼市・登米市から11チームが参加した。優勝は横山チームだった。

◇南三陸町の高台に森林管理協議会(FSC)の国際認証を取得した地元材(南三陸杉)の初の使用住宅が建設されている。体制も整い流通本格化に期待を寄せている。環境保護の観点からも、国内外でのFSC材の需要は高い。

◇気仙沼管内における認知症のグループホームの待機者が、3年で倍増となった。震災後の高齢者世帯の増加が要因となり、8月1日現在443人の待機人員となっている。今後は入所施設の充実や、みとり引き受けをするケースもある。

◇JR 大船渡線・気仙沼線の鉄路の再建を早期に実現する南三陸の会は、1万5千人分の署名簿を陳情を添え、伊藤震災復興・企画部長、山崎総合交通対策課長に手渡した。

◇南三陸町で24日「うたっこぶるめ」を開催し、音楽イベントと旬の味覚で楽しんだ。

南三陸町の宿泊施設は、震災前は37軒だったが、現在は18軒で以前の半分となっている。震災前の収容人数は、2498人だったが、2013年は1700人まで減少し、今回の4月1日現在で1963人となった。

◇南三陸町の入谷地区老人クラブ会長杯争奪グランドゴルフ大会が24日開催され、60歳以上の高齢者42人が参加した。

南三陸町は子育て応援に商品券を支給する。2016年4月1日以降に生れた子供が対象で、第1子が3万円、第2子が5万円、第3子以降は10万円を支給する。また、小学校入学児童に1人につき1万円支給するが、申請を受け(17年4月に町内の小学校に入学)支給の時期は決まっていない。

応援券の利用は商工会加盟の町内99店舗で使え、経済的効果も期待されている。

◇志津川・歌津・戸倉の3漁業者が、地元近海のタコやホヤなどの海産物を使った新商品を完成させた。27日に県や町の関係者46人が出席して発表会が開かれた。新たなブランドとして「いいもの南三陸」として売り出す。

◇南三陸署は町内の3事業所と「高齢者の見守り活動協定」を締結した。3事業所は志津川郵便局・河北新報南三陸販売所・ヤマト運輸志津川店で、高齢者の安全生活の見守りの役割をになう。

県漁業者交流大会で歌津支所青年部が最優秀を受賞した。青年部は「磯焼け対策事業の取り組み ウニノミクスと3本の矢」のテーマ発表をした。ウニの養殖を目指し、歌津のウニの安定生産が可能となれば、販売拡大と南三陸町への誘客効果にもつながる。

● 可保育所の待機児童は9人と報告され、0歳1歳の希望が増えている。

◆県沿岸秋さけの気仙沼市大川水系さけ・ますの増殖協会の総会があり、来遊は昨年度並みを想定し、採卵計画が8割に未たない場合は、11月中旬の網揚げ実施を検討する。

気仙沼市は仮設商店街を、被災した店舗や事業所が入る気仙沼市の施設を、入居者が希望する場合に「無償譲渡」することとした。解体費削減などもあり、積極的な活用をと呼び掛け、水産加工場などが意向を示している。

仮設住宅について気仙沼市が延長7年目を求めるが、3割が認められなかった。233件が県の用件から外れた。理由として再建意向が決まっていなかったり、意向調査に未回答だったことによる。

◆気仙沼港のカツオ水揚げが、20年連続の日本一となった。